

広報部 活動報告

広報部長 浅野 史行
広報部付 水野 薫
" 坂井 和彦

《一年を振り返って・事業報告》

1. 26年度は、会報「みみしお」を各月1,400部×12回発行した。毎月1日の発行日を順守するように努めているが、26年度は6月号が半月遅れの発行となってしまい、事務局ニュースで発行遅れの周知とお詫びする仕儀となった。このようなことがないように注意したい。

「みみしお」は会員に1部送付するほか、会員以外の購読希望者に有料で送付している。26年度の有料購読者数は255名で、25年度の271名に比して16名減っている。有料購読者の増加は会員事業財政の強化にもつながるので、今後もしっそう「みみしお」の内容充実に努めたい。

なお、昨年10月から出版・編集担当職員が新たに配置され、みみしおの編集にも協力してもらっている。各号の内容、ページレイアウトデザインの統一などについて、お互いの意思疎通をしっかりとしていきたい。

「みみしお」は、毎月の発行スケジュールをおおむね次のように想定している。

- 5日…執筆依頼先から原稿入稿
 - 10日…原稿内容の起案（広報部長→活動運営委員長）
 - 15日…印刷会社へ割付済みの原稿送付を開始
 - 16日～20日…印刷会社から、順次ゲラ着信
 - 23日…ゲラの起案（広報部長→活動運営委員長）
 - 24日…校正済み原稿送信期限
 - 25日…校了作業全て終了
 - 28日…らいおん工房へ納品→発送作業
- 翌月1日発行

原稿の修正、レイアウト修正、印刷会社への指示など

年度初めの時点で年間行事の具体的な日程が未定のものが多い状況は26年度もほとんど変わらず、みみしお掲載内容の見通しが立てにくい点は殆ど変化がなかった。

26年度は女性部の投稿が増えており、活動に積極性が感じられた。高齢部のように、写真主体で短いキャプションを付ける方法もあるので、専門部・支部が実施した行事について、各部長から情報提供＜400字程度の記事と写真2～4枚＞を積極的に（自発的に）お願いしたいと思う。

2. 26年度の「みみしお」の主な内容は次の通りであった；
 - ・4月号… 第33回耳の日祭り紹介、照沼力氏連盟厚生文化賞受賞祝賀会
 - ・5月号… らいおんホームそが開所、25年度県登録手話通訳者等紹介
 - ・6月号… 第43回関東ろう者体育大会会場案内、らいおんホームそが間取り紹介
 - ・7月号… 養成講座フォローアップテキスト紹介、第62回全国ろうあ者大会
 - ・8月号… 関東ろう者体育大会成績、なるほど研修会、青年部北海道研修旅行
 - ・9月号… 高齢部・女性部合同納涼会、義務研修講座
 - ・10月号… 第110回手話を考えるフォーラム
 - ・11月号… 長寿を祝う会、県ソフトボール大会、第47回全国ろう者体育大会
 - ・12月号… 後援会フラメンコライブ、東総支部研修旅行、高齢部城下町散策
 - ・1月号… 年賀広告、手話言語法全国集会参加記事、葛北支部イベント
 - ・2月号… らいおんホームそが、各専門部研修会、市川市協会創立50周年大会
 - ・3月号… 活動運営委員会紹介、芸術文化部トークショー、防災啓発記事
3. 「みみしお」送付の際、チラシの一部または全部に参加申込書を載せることは出来ない点については、理解がほぼ浸透している。
4. 行政機関等の「みみしお」無料送付先の見直しについては、取り組みが進められなかった。来年度の課題としたい。
5. 「みみしお」を補完するものとして、協会行事、関東・全国に関する情報の迅速かつ適宜な提供のため、26年度は「事務局ニュース」を37回発行した。希望者へは電子メール添付の形で配信するのが原則であるが、高齢者等パソコンを持たない希望者に対してはファックスによる配信で対応している。購読料は年間300円で、26年度は28名の購読者へ配信を行った。
6. ホームページについては担当者を置いて、出来るだけ最新の情報提供が可能になるように努めているが、「みみしお」や事務局ニュースとの連携の円滑化が課題である。センターのホームページと比べて、迅速な情報提供、内容、デザインなどが見栄えがするものとなっているとは言い難いので、それらの充実化が今後の課題である。